

おおもり



平成 30 年 6 月 7 日
東根市立大森小学校
学校だより 73 号

子どもたちには、できるだけ多くの「なぜ」「どうして」が生まれる活動の提供を・・・！

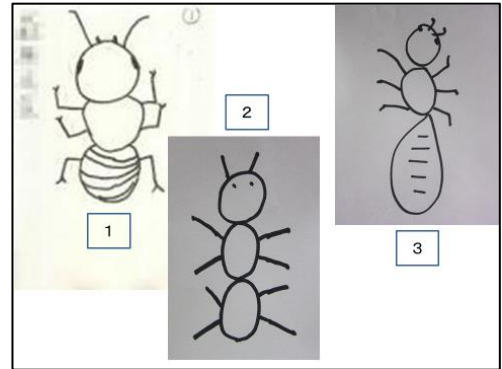
平成 29 年 3 月 31 日、学習指導要領（日本どこでも一定の水準の教育が受けられるように定めたもの、全国の学校のカリキュラムを作るときの基準となるもの）が改訂され、小学校では平成 32 年度からの完全実施に向けての準備が進められています。

内容的には、特別な教科道德の充実・体験活動の重視・豊かな心や健やかな体の育成を図るための体育や健康指導の充実、そして知識理解の質を高め、資質・能力を育む『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善などが主な内容となります。

子どもを取り巻く社会環境の変化に伴い、子ども自身の体験不足や「何のために学ぶのか」といった学びの必要性が問題視される昨今、そのねらいの具現化を考えた時、やはり、その学びを支えるものは「**子どもの知的好奇心**」、その知的好奇心を高めるために大切にしたいことは「**実体験**」だと私は考えています。

「**体験**」は、それをやり終えたとき、個々に「**確かな自信**」を育み、そして、「**新たな課題**」も与えてくれます。また、「どうして」「なぜ」といった好奇心は「**学ぶ意欲**」を高め、さらに「もっとこうしてみたい」「これはどうなんだろう」といった「**深い学び**」にもつながっていきます。

実は、6月6日（水）の全校朝会（校長講話）でも、「風船に画鋲を刺しても割れない実験」や、常日頃目にする「蟻の体のつくりを考える」（下図）などの話題提供を通して、子どもたちの「なぜ」「どうして」を引き出すための話をしました。私たちは、見慣れた事象などについては、つい分かったつもりになって見逃してしまうことも多いのですが、「なぜ」「どうして」などの興味や関心、好奇心などをもって勉強や様々な活動に取り組めば、もっともっと確かな学びができることに気付いてほしいという内容の講話です。



わずか15分程度の時間でしたが、子どもたち一人ひとり、目をキラキラ輝かせ、「興味・関心」いっぱいの表情で聞いてくれている姿が印象的でした。

これからも、大森小学校では、様々な授業や活動を通して、子どもたちの「**心育ち**」という学びの基礎作りに努めていきたいと考えています。

保護者の皆様におかれましても、ぜひ、子どもたちにできるだけ多くの「なぜ」「どうして」が生まれるような活動場所の提供や学ぶ意欲につながるお声かけをお願いできればと思います。（次号は、「心が育つ言葉の循環」についての話を掲載する予定です。）

*ちなみに、子どもたちに答えてもらった蟻の体のつくりの正解はどれだと思いますか？

（絵の上手、下手で判断してはいけません。） 答えは ⇒

③

（校長 土屋 常 義）

